

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年3月23日

事業所名 児童発達・児童デイドリーム3rd

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点や 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			
	②	職員の配置数は適切である	100%			現在は児童一人に対し職員一人配置している
	③	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%			
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%			共有事項等はホワイトボード等を活用している
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			会議を開き改善を行っている
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%			
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			内外問わず研修を設けている
適切 な支 援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%			
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、定期的に職員カンファレンスは行われているか	100%			
	⑪	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%			
	⑫	活動プログラムの立案を複数名で行っている	100%			
	⑬	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	100%			
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			

	⑯	支援終了後には、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%			口頭で伝えられない時はメモやLINE等で共有を図っている
	⑰	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%			
関係機関や保護者との連携	⑱	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			
	⑲	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	40%	20%	40%	直接連携を取ることは出来ていないので、今後は利用開始前や必要に応じて図るようにする
	⑳	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%		
	㉑	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%			
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	100%			
保護者への説明責任等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%			
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%			年に1、2回開催している
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意している	100%			
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			
	㉜	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	80%	20%		

非常時等の対応	③③	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	80%	20%		努力はしているが、保護者への周知の徹底が出来るよう、再度周知方法を検討する
	③④	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%	20%		児童発達に関しては開所自体が少ないのもあり、なかなか行えていなかったもので、今後は少ない中でも行えるようプログラムの立案をしていく
	③⑤	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%			
	③⑥	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%			
	③⑦	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			定期的に安全会議も行い法人全体で共有し、その事例に対し、必ず改善策等も話し合っている
	③⑧	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			DVD等も活用している
	③⑨	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。